

作業療法(OT)

食事や入浴・排泄といった日常生活動作を行うための訓練・指導や創作活動あるいはレクリエーション活動などを通じて身体機能・精神機能を高めつつ、その人らしい生活への援助を行います。



急性期・1983年入職
作業療法士

未だ道半ば

作業療法は一方的にセラピストが患者様に何かを与えるような仕事ではありません。患者様がちょうどよい生活を送れるように、疾患から生活までをよく見て、患者様やご家族が自分で動き出して生活を継続できるように援助するのが作業療法です。

作業することで人は元気になると考えています。好きな作業をすれば元気にもなり、やりすぎたり、何もしなさすぎると不健康になります。患者様の作業は複雑で、臨床では疑問がどんどん出てきます。今は「コロナ禍の中で健康に暮らすために、作業療法は何ができるか」「重症の患者様の作業って何だろう」と考えて、一つ一つ成果を出していきたいと考えています。

感謝の言葉をやり甲斐に

患者様と一緒にリハビリを進め、関わりの中で元気になっていく姿を見られるのがやり甲斐です。「最初は動けなかったけど最終的に歩けるようになった。あなたと出会って良かった」と患者様に言って貰えたとき、OTになって本当に良かったと実感しました。とはいえ、良くなる患者様ばかりじゃありません。重い障害が残った患者様と接する際、自分には何ができるんだろうと悩むこともあります。

一緒に頑張っていきたいと思うセラピストは、元気で、自分の考えをしっかりと持ちつつ、周囲の意見もしっかりと取り入れることができる人。悩むことはあると思うけれど、その悩みを共有し、一緒に一歩ずつ前へ進んでいきましょう。

回復期・2018年入職
作業療法士



回復期・2012年入職
作業療法士

患者様の手助けを

自分が「どうしよう」というのではなく、患者様が「頑張れる手助けができればいいな」と思っています。患者様がこれまでどんな生活を送っていたのか、これからどうなりたいたいのかをきちんと聞いた上で、専門的な知識や技術を駆使しながら「こうしてみませんか」とアドバイスをしたり、「一緒に頑張りましょう」というスタンスです。「自分がなんとかする」ではなく「手助けができれば」という思いです。

一緒に頑張っていける仲間を増やしていきたい。作業療法が「楽しい」と思ってもらえる後輩や仲間をつくるのが患者様のためになり、それが地域や社会への貢献につながるのではないかと考えています。



急性期・2018年入職
作業療法士

患者様と一緒に歩いていく

就職して初めて担当した患者様のことは忘れられません。悩みながら服の着方や服の仕様を工夫して練習した結果、1人で着られるようになったのです。その患者様に久しぶりに会うと、2年経ってもその服を着てくれていました。嬉しかったですね。作業療法士の仕事は、患者様と一緒に目標に向かって歩いていく感じ。大変だけれどやり甲斐を感じています。

今後は人生経験をいっぱい積みたい。パチンコや競馬とかも(笑)。作業療法士として患者様の人生を少しでも理解するために、色々なことを経験したいです。